

CHAPTER 5 ブルーススケール

さて、本章と次章はブルーススケールを使ってモチーフを作ってみましょう、という回です。

ということで、当然ブルーススケールについて説明しなければいけないのですが、結論だけ言って おきますと、

そもそも、ブルーススケール、というものはちゃんと存在しません。

つまり、ブルーススケールとはこれ、と言えるようなものはありません。でも、こんな感じでよく 使う、というものはいくつかありますが・・・

ブルーススケールとは何か? これは歴史的に、アフリカからアメリカにつれてこられた人たちが、 西洋音楽を押し付けられたときに、自分たちの音楽にフィットさせるために発生してきたものと考 えられています。

で、どのようにフィットさせたか?? "ブルーノート"を加えました。

ブルーノートとは、そのキーのスケールの3と5と7にフラットを付けた ものです。

もしキーがCなら、EとGとBにフラットをつけたEb, Gb, Bb がブルーノートと呼べます。

つまり、アフリカの人たちは3と5と7にフラットを付けたくなる文化の人たちだったので、教会などで西洋音楽を歌わされたら、勝手にフラットを付けて歌ったりしていたというわけです。

当然、メジャースケールも3、5、7にフラットを付けちゃうわけです。

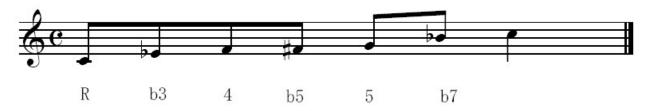
それがブルーススケールの発生の由来で、一番元のブルーススケールということができます。





なのですが、誰が決めたわけでもなく、これが正しいというものが存在しません。 ですが、よく使われる"通称ブルーススケール"というものがありまして、、

C 通称ブルーススケール その1





このあたりがよく使われる、通称ブルーススケールです。その1とその2の違いはレの音、つまり9の音が入っているかどうかです。

ここでは、最もよく使われるであろう"通称ブルーススケールその1"を中心にお話したいと思います。

今回はFのブルースを練習しているので、Fの"通称ブルーススケールその1"を練習してみましょう。

In C: F Blues Scale



In Eb: D Blues Scale



In Bb: G Blues Scale



上から各楽器ごとに並んでいます。

皆さんがお使いの楽器のキーで、以下のように練習してください。

In C Instrument



例えば、Cの楽器だと上のようになります。 ただスケールで上がったり下がったりしただけです。 それを各楽器で練習しましょう。次章ではブルーススケールを使ったアドリブを説明します。